

第35号

令和5年1月21日



発行／社会福祉法人

八街市社会福祉協議会

八街北地区社会福祉協議会
(榎戸区・泉台区・みどり台区)

TEL (443) 0748

FAX (443) 1761

発行人／松下 正 治

印刷／アキバスタジオ

瞬く間に世界中に感染していった新型コロナウイルスは、パンデミックなコロナ禍となり、それから3年余の長きにおよび、当たり前の社会生活が出来なくなりました。

しかし、今年の9月に入ってから、政府はゼロコロナ政策からウイズコロナ政策へと転換し、少しずつですが、社会に温かな血が通い始めたようになりました。

そして、私達の活動も徐々に活気が生まれ始め、更に広報誌『ささえ』を再開しようよという声が上がった。新しく編集長になった

ささえ発行再開に思う

ささえ編集長 大塚 正 紀

笑顔がっなぐ人の和で
安全安心街づくり

私ですが『ささえ』は、地域の皆さんへの希望の伝言板だと思っていましたので、明日への希望になればと願いゴーサインを出した次第です。

最後に、このコロナ禍の間に、長きに渡りご尽力戴いたお二人のメンバー交代がありまして、紙面をお借りして、お二人に深く感謝の言葉を送らせていただきます。



コロナ禍での地域福祉活動
つながりを絶やさない

八街市社会福祉協議会

八街市社会福祉協議会では、地域福祉活動やボランティア活動などを通じ、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指して、地域住民同士がお互いに支え合い、つながり合えるようさまざまな活動を進めてきました。

しかし、新型コロナウイルスの影響により、外出の機会が減り、人と会い、話しをすることが極端に減ったことで、高齢者の虚弱化、社会孤立、活動意欲低下などコロナ禍で見えてきた新たな地域福祉課題が浮き彫りになっていきます。同時に地区社協の地域福祉活動も制

限され、活動に関わる皆さまも本来の力を発揮できない状況にあると思います。

このような状況になったことで、「誰かとながら」「お互いに支えたり支えられたりする」などで、これまで積み重ねてきた活動がどれだけ大切なのかを改めて気づく機会にもなりました。

終息が見通せない中ではありますが、勇気をもって「できること」を「できる方法で」地域を守り次の世代へつなげる活動を皆さんとともに実践していきたいと考えています。

ご協力をよろしくお願いいたします。



